

腸管外病原性大腸菌の臍帯感染により死亡した新生子牛の死亡原因の細菌学的考察と泌尿器病変の病理学的探索

瀧奥健吾¹⁾ 細川久美子²⁾ 船守足穂²⁾ 堀 香織^{3)†}

1) 広島県農業共済組合 府中家畜診療所 (〒729-3421 府中市上下町深江 396-1)

2) 広島県西部家畜保健衛生所 (〒739-0013 東広島市西条御条町 1-15)

3) 麻布大学獣医学部 (〒252-5201 相模原市中央区淵野辺 1-17-71)

(2024年8月5日受付・2025年10月27日受理・2026年2月27日公開)

要 約

生後4日齢で起立不能となり8日齢で尿閉塞を発症した黒毛和種子牛の死亡の原因探索を行った。解剖所見では遺残した臍静脈と尿膜管が臍部に開口し、尿膜管、尿道、膀胱内には線維素が析出し、腎臓、尿管には膿貯留が認められた。病理組織学的検査では塞栓性化膿性腎炎、腎梗塞、腎盂腎炎、壊死性膀胱炎を確認した。肝臓、腎臓、膀胱、尿管、尿膜管を摘出培養したところ大腸菌が優位に検出されたことから、子牛の死因は臍帯から大腸菌が上行感染したことに起因する腸管外病原性大腸菌 (Extraintestinal Pathogenic *E. coli*: ExPEC) 感染症と診断した。PCR法による遺伝子検査にて、この大腸菌からはExPECに特徴的とされる病原性関連因子の鉄補足因子遺伝子 (*iutA*, *fyuA*, *irp1*, *irp2*) が検出された。——キーワード: 腸管外病原性大腸菌 (ExPEC), 新生子牛, 臍帯。

----- 日獣会誌 79, e1~e8 (2026)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/2/79_e1_/article-char/ja